

# 言語を学ぶと世界が広がる

手話は、自らの意思や物の名称等を、手指や体の動き、表情等により視覚的に表現する独自の体系を持つ言語であり、ろう者が、心豊かな日常生活を営み自分らしく生きていくうえで、かけがえのないものです。

～二本松市手話言語条例序文より～



## 私、知らないことだらけ

二本松市の登録手話通訳者は、今年度新たに3人が加わって、13人。

その中で、渡邊尚子わたなべしやうこさんは、国の手話通訳技能認定試験に合格した「手話通訳士」として活躍しています。

渡邊さんと手話をつないでくれたのは、渡邊さんの子ども達。小学5年生の時に手話サークルに通い始め、渡邊さんはその送り迎えをしていました。そのうちに、渡邊さんも一緒に手話

の勉強をするようになったそうです。

勉強をして、手話で会話が出来るとなると、「ろうの人と話せることが楽しい。いろんなことを感じ方が違う。『私、知らないことだらけだった』と思ったそう。

ろう者の方にも手話に携わる先輩も、たくさんの方に手話を教えてもらい、そして、手話以外のことも勉強をさせてもらい、「世界が広がった」と話してくれました。





3



4



- 1\_保育園の先生との面談で通訳をする渡邊さん(左)。マスクを外し、口の動きを読み取る「口話」と「手話」でコミュニケーションをとります。
- 2\_保育園のお楽しみ会でも渡邊さんたち手話通訳者が活躍します。
- 3\_市で開催している手話奉仕員養成講座。(講師：大河内妙子さん(左)、安齋美和子さん(右))
- 4\_市の記者会見でも手話通訳者の協力によって、会見内容を動画でも発信。

耳の聞こえない方々は  
こんな事で困っています

■日常生活で：

お店で弁当を買うと、店員さんが「温めますか？」と聞いてくれます。しかし、レジに表示された金額を見ていたりすると、分かりません。しかも、今は、みんながマスクをしています。電子レンジを指差してもらうと、格段に伝わりやすくなります。

■「電話」での問い合わせ

手話通訳者がいなければ、電話で相談や問い合わせをすることが出来ません。

また、病院に入院する時や大事な話をする時も、手話通訳者がいなければ、どんな薬をもらっているのかなかなかつたり、大切なことが伝わっていないかたりすることがあります。入院した時に面会が出来ないとコミュニケーションが難しくなります。

夜間でも救急でも、手話通訳者は必要とされています。

住みやすい街へ

二本松市は、手話が言語であることを理解し、全ての市民が隔たりなく暮らすことの出来る住みやすい街の実現を目指しています。

◎問い合わせ：

福祉課障がい福祉係

☎(55) 5113

Fax (22) 1547

袋は必要ですか？

温めますか？



袋



必要？



温める？